



1

史上最悪の干ばつに直面

国家非常
事態宣言

下水処理水を飲料水に

世界中に配信され、大きな反響を引き起こした。

21世紀に起こるべき世界の水問題を先取りするようオーストラリアの「水を巡る利害関係者の争い」を現地調査とともに詳細を述べてみたい。

水不足の背景

2007年1月末、オーストラリア・クィーンズランド州のヒーティー首相は、現地のABCラジオに「一雨は降らない、われわれにはもはや選択肢はない、下水処理水を飲料水にすべきた。これは生きるか死ぬかの問題であり国家非常事態宣言だ、住民にその是非を聞いている余裕はない」と語った。このニュースは英国のBBC放送を通じ世界



オーストラリア全図

もともと乾燥大陸のオーストラリアの平均降水量は水と干ばつを繰り返す気候であり、流れる川は乾期における貴重な水源である。内陸部は、過去150年、酪農地が急激に広がるにつれ、地下水、川からのくみ上げが増加した。現在は滞水層にある化石水を消費している状況である。ここでも農業用水が最も多く、他国と比べて特徴的なのは鉱山(鉄鉱石、石炭)用水が多いことである。(表1)

グローバルウォータ・ジャパン代表
吉村 和就

近年、水不足に直面する広大な内陸部では、牧草地が枯れ始め、全国各地で山火事が頻発している。しかし最も深刻なのは人口の密集地である。温暖化の影響で降水量が減少しているうえに川の水量不足と重なり、シドニー、メルボルン、ブリスベンなどの大都市が100年来の干ばつに見舞われている。また水源から遠い沿海地域に国民75%の人間が住んでいることも、水不足に拍車をかけている。

表-1 水の需要先

項目	割合
1 農業	67%
2 家庭	9%
3 電気・ガス事業	7%
4 商業サービス	3%
5 工場	3%
6 鉱山	2%
7 その他	9%

表-2 家庭での水使用内訳(520L/人/日)

項目	割合
1 庭木、芝生散水、洗車	44%
2 風呂・シャワー	20%
3 トイレ	15%
4 洗濯	13%
5 台所	8%

WSAA資料より

例えは450万人が住むシドニーはニューサウスウェールズ州に位置するが、今までの給水制限で1950年代と同しく、一人一日当たりの使用量343リットルまで減少した。90年代のピーク使用時は、平均520リットルだった。家庭での水使用量の内訳を示す。(表2)

またメルボルンを有するヴィクトリア州は昨年の降水量は367ミリで、観測を開始して以来、3番目に少ない事態に直面している。一方、移民による人口増加率も過去最高の伸びを記録しており、しかも出生率は1.83人となり、今後の水需要のさらなる増加が予想されている。